

3-2 考古学

研究・教育活動の概要と特色

考古学専攻分野は、戦前の奥羽史料調査部の考古学研究に根ざし、1957年の講座設置以来、東北地方における中心的な考古学研究教育機関としての、長い伝統を發展させています。遺跡・遺物の調査に基づく実証主義の学風をよく継承し、地域の自治体などとも連携し、先端的な調査・分析・報告を続けています。近年10年間においても、旧石器、縄文、弥生、古墳、古代の各時代の遺跡ともに、発掘調査等の研究対象としてきました。遺跡の高精度な調査、遺物の問題志向的な分析を重ねています。また、旧石器時代遺跡の調査方法、先史文化の比較研究、先史集落の研究、地域性の解明、型式学・技術論・機能論の深化、遺物の材質分析、なども重点的テーマとし、研究を進めています。米国、ロシア、中国、韓国などとの研究交流も活発に行なっています。

考古学陳列館・標本室に総数20万点以上の、考古学収蔵資料の蓄積を有し、各時代の基準資料に優れ、これらは教育にも活用しています。収蔵資料のデータベース化を順次、着実に進めています。重要資料は、博物館の特別展示等、全国的に公開されています。大学院修了生、学部卒業生ともに、多数が研究者、学芸員、文化財調査員など、専門職の進路を選択して活躍しています。東北歴史博物館、多賀城跡調査研究所との連携大学院である「文化財科学専攻分野」とは緊密に協力して、教育成果を上げていますので、以下の諸表での該当項目は、両専攻分野を併記してありますことを、申し添えます。

I 組織

1 教員数 (2009年9月末現在)

考古学

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：0

教授：阿子島香

准教授：鹿又喜隆

文化財科学

客員教授：2

客員准教授：1

客員教授：後藤秀一、阿部博志

客員准教授：古川一明

2 在学生数（2009年9月末現在）

考古学

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
20	0	3	3	0

文化財科学

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
—	—	0	0	0

(文化財科学は、大学院のみで、学部課程はありません)

3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

考古学

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	8	3	3
06	8	3	3
07	4	4	0
08	1	0	0
09	0	0	0
計	21	10	6

*2009年度は、9月末までの数字

文化財科学

年度	学部卒業者	大学院博士課程前期修了者	大学院博士課程後期修了者 (満期退学者)	博士学位授与者
05	-	2	0	0
06	-	0	0	0
07	-	1	0	0
08	-	0	0	0
09	-	0	0	0
計	-	3	0	0

*2009年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	0	0	0
06	4	1	5
07	0	1	1
08	0	0	0
09	0	0	0
計	4	2	6

*2009年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

渡辺泰伸、2005年度、『古代東北窯業生産の成立と変遷』

審査委員：教授・須藤隆(主査)、教授・阿子島香、教授・今泉隆雄

鹿又喜隆、2005年度、『東北日本後期旧石器時代における石器の製作技術と機能の研究』

審査委員：教授・須藤隆(主査)、教授・阿子島香、教授・柳田俊雄、教授・今泉隆雄

菅野智則、2005年度、『縄文時代における集落構造の研究』

審査委員：教授・須藤隆(主査)、教授・阿子島香、教授・柳田俊雄、教授・今泉隆雄

小笠原好彦、2005年度、『日本古代寺院造営氏族の研究』

審査委員：教授・須藤隆(主査)、教授・阿子島香、教授・今泉隆雄

山口博之、2006年度、『中世奥羽社会の特質と地域性についての考古学的研究』

審査委員：教授・須藤隆(主査)、教授・阿子島香、教授・今泉隆雄、助教授・柳原敏昭

木本元治、2007年度、『東日本における郡家遺跡の出現と律令制地方支配の確立』

審査委員：教授・阿子島香(主査)、教授・今泉隆雄、教授・柳田俊雄

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数 (考古学と文化財科学を併せたもの)

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	2	1	0	0	3
06	0	1	0	0	1
07	0	0	1	2	3
08	2	0	0	0	2
09	2	1	0	1	4
計	6	3	1	3	13

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数 (考古学と文化財科学を併せたもの)

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	0	4	1	0	5
06	0	1	1	0	2
07	0	1	0	0	1
08	0	2	1	0	3
09	0	3	1	0	4
計	0	11	4	0	15

*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

市川健夫 「亀ヶ岡式土器の製作技術と地域性」 『東日本縄文・弥生時代集落の
発展と地域性』, 2007

市川健夫 「晩期縄文土器文様における単位と割付に関する一考察—久原コレクション

- ヨンの分析から一」『考古学談叢』,2007
- 市川健夫「北上川中流域における晩期中葉土器の研究一文様の単位と割付を中心に一」『岩手県における縄文文化の諸相』,2007
- 市川健夫「北上川中流域における晩期縄文土器文様割付の研究一晩期中葉を中心に一」『文化』72-1・2,2008
- 小原一成「縄文時代墓制の基礎的研究法に関する一試論」『博古研究』29,2005
- 小原一成「縄文時代中後期の埋葬痕跡と遺構群の形成一盛岡市上米内遺跡の分析」『文化』71-3・4,2008
- 小原一成「縄文時代後期初頭の埋葬施設と集落一岩手県滝沢村けや木の平団地遺跡の分析を通じて一」『博古研究』37,2009
- 小原一成「縄文時代における土器埋設遺構研究の視座一北上川流域における縄文時代中期中葉の事例をもとに一」『歴史』113
- 小田嶋知世・岩田貴之・太田代一彦・小原一成『八幡遺跡(2006・2007年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第98集,2009
- 鹿又喜隆「東北地方後期旧石器時代初頭の石器の製作技術と機能の研究」『宮城考古学』7,2005 (*助手時)
- 鹿又喜隆「細石刃の装着法と使用法」『考古学雑誌』88-4,2005
- 早瀬亮介「阿武隈川下流域における縄文時代前期初頭の土器型式」『歴史』104,2005
- 早瀬亮介・菅野智則・須藤隆「東北大学文学研究科考古学陳列館所蔵大木圀貝塚出土基準資料一山内清男編年基準資料一」『Bulletin of the Tohoku University Museum』5,2006
- 芝康次郎・大場正善・村田弘之・傳田恵隆「植刃器製作実験とその可能性」『日本旧石器学会第7回講演・研究発表シンポジウム予稿集』,2009
- 村田弘之・芝康次郎・阿子島香・柳田俊雄「山形県真室川町丸森1遺跡第1次発掘調査」『第22回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』,2008

(鹿又は、博士後期課程から本学助手に就職し、のち後期課程に復学したので、記載している(*助手時)。ただし表中の数には含めていない。)

(2) 口頭発表

市川健夫 晩期縄文土器における施文技術の研究一晩期中葉を中心に一 東北大

学文学部考古学研究会第 61 回例会 2006.5.13

市川健夫 晩期縄文土器文様における単位と割付の一様相－青森県東津軽郡外ヶ
浜町今津遺跡出土資料を中心に－ 東北史学会 2006 年度大会 2006.10.8

市川健夫 北上川中流域における晩期中葉土器の研究－文様の単位と割付を中心
に－ 2007 年岩手考古学会第 38 回研究大会 2007.7.29

市川健夫 縄文時代晩期大洞 C2 式土器から見る地域間交流の射程－北上川中流域
と雄物川上流域の比較分析を通じて－ 東北史学会 2008 年度大会 2008.10.5

五十嵐愛 晩期縄文時代における煮沸具の機能・用途について 東北史学会 2009
年度大会 2009.10.3

小原一成 縄文時代における土器埋設遺構研究の視座 東北史学会 2008 年度大
会 2008.10.5

小原一成 縄文時代における人骨出土状態の諸例 東北史学会 2009 年度大会
2009.10.3

鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・市川健夫・小原一成・村田弘之 山形県丸森 1 遺
跡第二次発掘調査の概要 東北史学会 2009 年度大会 2009.10.3

吾妻俊典・櫻井友棹 東北大学所蔵木戸窯跡群資料の検討 東北史学会 2005 年度
大会 2005.10.2

高橋大輔 旧石器時代終末期の尖頭器製作技術 東北史学会 2005 年度大会
2005.10.2

傳田恵隆・村田弘之・芝康次郎・阿子島香 東北大学基準資料の考え方 第 14 回
石器使用痕研究会 2009.3.7

羽石智治 後期旧石器時代における遺跡形成過程の研究－新庄市上ミ野 A 遺跡出
土資料の分析－ 2005 年度宮城県考古学会研究発表会 2005.5.15

村田弘之・芝康次郎・阿子島香・柳田俊雄 山形県真室川町丸森 1 遺跡第 1 次発掘
調査 第 22 回東北日本の旧石器文化を語る会 2008.12.20

芝康次郎・大場正善・村田弘之・傳田恵隆 植刃器製作実験とその可能性 第 7 回
日本旧石器学会 2009.6.27(※ポスターセッション)

山口博之 中世東北の陶器生産と流通 環日本海交流史研究会 2005.10.28

山口博之 中世陶器窯の位相 東北学院大学中世史研究会 2005.6.25

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

2008年度 PD 受入 1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2008年度 学部留学生 受入 1名

2009年度 大学院特別研究学生 日仏共同博士課程 受入 1名

2009年度 学部留学生 受入 2名 (2009年度留学生合計4名)

5-2 留学生の受け入れ状況 (学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	1	0	1
09	3	1	4
計	4	1	5

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	0	1	1
06	0	1	1
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
計	0	2	2

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

羽石智治、つがる市教育委員会、2004年度博士後期課程単位取得退学

小野章太郎、宮城県教育庁文化財保護課、2004年度博士後期課程単位取得退学

櫻井友梓、岩手県教育委員会生涯学習文化課、2005年度博士前期課程修了

森田賢司、仙台市教育委員会、2006年度博士前期課程修了

佐藤秀一、角田市教育委員会生涯学習課、2006年度文学部卒業
古田和誠、宮城県教育庁文化財保護課、2007年度博士課程前期修了
鹿又喜隆、東北大学大学院文学研究科、2005年度博士後期課程単位取得退学
菅野智則、東北大学埋蔵文化財調査室、2004年度博士後期課程単位取得退学
早瀬亮介、(株)加速器分析研究所、2005年度博士後期課程単位取得退学
市川健夫、東北大学大学院文学研究科、2008年度博士課程中途退学

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2005年度 高校教員 1名
2006年度 新聞社社員 1名

8 客員研究員の受け入れ状況

中央研究院歴史語言研究所（台湾）副研究員 陳玉美
2005年9月4日～10月9日
ネブラスカ・リンカン大学（アメリカ）教授 Peter Bleed
2006年6月15日～8月1日
サハリン州郷土博物館（ロシア）主任学芸員 Shubin Valery
2009年7月3日～8月31日

9 外国人研究者の受け入れ状況

中国社会科学院考古研究所（中国）副研究員、王小慶 東北大学総合学術博物館客員教授 2007年5月21日～9月19日
中国科学院古脊椎動物与古人類研究所（中国）副研究員・北京市王府井古人類文化遺址博物館（中国）副館長、李超榮 東北大学総合学術博物館客員教授、
2008年5月21日～9月8日

10 刊行物（専攻分野刊行のもの）

『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』 2007年
『考古学談叢』 2007年
『考古・民族・歴史学論叢』 2008年
『阿武隈川下流域における縄文貝塚の研究 土浮貝塚』2009年（※角田市教育委員会と共同刊行）

1 1 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005 年度

東北史学会考古学部会
宮城県考古学会総会・研究発表会

2006 年度

東北史学会考古学部会
宮城県考古学会総会・研究発表会

2007 年度

東北史学会考古学部会
宮城県考古学会総会・研究発表会
博古研究会（仙台大会事務局）

2008 年度

東北史学会考古学部会
宮城県考古学会総会・研究発表会
石器使用痕研究会総会

2009 年度

東北史学会
宮城県考古学会総会・研究発表会

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2005 年度

東北大学文学部考古学研究会第 59 回例会～第 60 回例会(6 月 25 日、
12 月 3 日)

2006 年度

東北大学文学部考古学研究会第 61 回例会(5 月 13 日)
須藤隆先生最終講義「縄文から弥生へー東北考古学の回顧そして展望ー」(2007
年 3 月 10 日)

2007 年度

東北大学考古学研究室 ・東北アジア研究センター合同研究懇談会「ロシア科
学アカデミー・シベリア支部と発掘調査の風景」エレナ・ボイテシュカ氏
(同支部考古学民族学研究所) (2008 年 1 月 29 日) ※東北アジア研究セン

ターと共催

2008年度

東北大学総合学術博物館・文学研究科考古学研究室合同研究会李超榮氏（中国科学院古脊椎動物与古人類研究所）（2008年6月18日・25日）※東北大学総合学術博物館と共催

李超榮氏 公開講演会「中国の前・中期旧石器時代の新情報」（2008年8月23日） ※宮城県考古学会旧石器研究会と共催

大学院 GP 国際セミナー マルセル・コーンフェルド氏（ワイオミング大学 ジョージフリソン研究所）「First People of the North American Rocky Mountains」（2008年12月12日）

石器使用痕研究会総会（共催）（2009年3月7・8日）

2009年度

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

考古学専攻分野では、組織的な調査、分析研究、報告、教育などの各面は、不即不離で総合的なものという立場で、研究教育活動を進めてきました。考古学専攻分野の教員数は、教授1名、准教授1名です。東北大学総合学術博物館の教授1名が協力教員となっています。

在籍学生数は、年により増減がありますが、収容定員数10名に対し、各年4～8名の卒業生を出しています。修士課程は、収容定員数2名に対し、各年1～4名の修了生を出しています。課程博士は、2005年度の提出者が3名（1名は社会人大学院生、授与は2006年度上半期）、2006年度が1名（社会人大学院生、授与は2006年度末）となっています。課程博士論文のテーマは、後期旧石器の機能、縄文時代集落、古代東北窯業生産、中世東北考古学と、各時代があります。論文博士は、2007年度に1名です。テーマは、古代東北の郡家遺跡です。考古学専攻分野は、宮城県立東北歴史博物館、および多賀城跡調査研究所との協定による連携大学院である「文化財科学専攻分野」（客員教授2、客員准教授1）と緊密に協力して教育成果をあげております。収容定員は、各年1名ですが、2005～2009年度で、3名の修士を出しています。卒業生、修了生の進路は、民間企業をはじめ多岐にわたっていますが、考古学、文化財の専門分野の研究者・高度職業人も多く、5年間で10名になります。つがる市、岩手県、宮城県、福井県、加速器分析研究所などがあります。

組織としての発掘調査は、5年間のうちに、旧石器時代（群馬県桐生市鶴ヶ谷東遺

跡・山形県真室川町丸森 I 遺跡)、縄文時代(宮城県名取市泉遺跡への協力)、弥生時代(宮城県白石市和尚堂遺跡への協力)、古墳時代(宮城県丸森町台町古墳群測量調査)、古代(宮城県白石市元山窯跡測量と試掘)と各時代の調査を実施しています。また、多賀城跡調査研究所による発掘調査には、毎年、文化財科学研究実習として、院生と希望する学部生が参加しています。調査資料の整理と報告は、継続的に進めており、新潟県川口町荒屋遺跡、山形県新庄市上ミ野 A 遺跡、大分県日出町早水台遺跡(総合学術博物館との協力)、宮城県角田市土浮貝塚(角田市教育委員会との協力)の報告書を刊行しています。また大学院生の研究発表は活発であり、5年間で論文11件、口頭発表12件となっています。地域での学会活動では、宮城県考古学会、東北史学会、東北大学考古学研究会で、運営に参画し、研究発表を行っています。

収蔵資料の整理とデータベース化は、文学研究科歴史科学専攻の「歴史資源プロジェクト」と連動しつつ継続的に進めています。考古学陳列館の主要資料について、約3500件の画像データベース化を行い、考古学標本室収蔵の約7000箱について、資料内容のリスト化を進めました。また、伊東信雄資料のうちサハリン関係資料、山内清男の大木式土器標識資料について、詳細な内容を調査、公開しました。文学研究科所蔵の考古学、民族学資料は、各地博物館の特別展等への貸し出しも増加し、2006年度33件、2007年度29件、2008年度39件です。2008年度では考古学陳列館に、研究者34名の見学調査を受け入れました。

国際交流では、米国、台湾、ロシアからの客員研究者、また総合学術博物館へのロシア、中国からの客員教授を受け入れ、資料の共同研究を行っています。

Ⅲ 教員の研究活動(2005～2009年度)

1 教員による論文発表等

1-1 論文

須藤隆「歴史資源アーカイブ」による考古学陳列館・標本室収蔵の考古学資料データベース化」、『東北大学歴史資源アーカイブの構築と社会的メディア化』, pp.119-122, 2005.3

早瀬亮介・菅野智則・須藤隆「東北大学文学研究科考古学陳列館所蔵大木囲貝塚出土基準資料—山内清男編年基準資料—」,『東北大学総合学術博物館紀要』No.5, pp.1-40, 2006.3

阿子島香「総論：技術組織論と技術構造論(特集、道具の組織化)」,『考古学ジャーナル』560号, pp.3-5, 2007.7

- Akoshima, Kaoru, 「Recent developments of micro use-wear studies on stone tools in Japan」, 『Ancient Hong Kong and East Asia: The fourth international conference on ancient culture of South China and neighboring regions』, pp.25-31, 2007.11
- Akoshima, Kaoru. 「Emergence of high-power microwear analysis in Japan, 1976 to 1983: Prof. Serizawa's legacy and beyond」, 『芹沢長介先生追悼 考古・民族・歴史学論叢』, pp.189-207, 2008.3
- 阿子島香「高倍率法30年の展望から」, 『石器使用痕研究会会報』8, pp.1-4, 2008.3
- 阿子島香「ジオアーケオロジとセトルメントアーケオロジの接点ー欧米での研究からー」, 比田井民子他編『考古学リーダー14 後期旧石器時代の成立と古環境復元』, 六一書房, pp.109-123, 2008
- Akoshima, Kaoru. 「A tradition of local history at a small castle town in northeastern Japan, 1968 to 1977: Mr. Nakahashi's legacy and beyond」, 『蔵王東麓の郷土誌-中橋彰吾先生追悼論文集』, pp.53-78, 2008
- 阿子島香「日本石器微痕研究の新進展」(中国語訳), 『古代香港与東亜(予定)』(印刷中), 2009
- Vasilevski Alexander, Takashi Suto, Kaoru Akoshima, Tomoharu Haneishi and Toshio Yanagida, The list of the Professor of Tohoku University Ito Nobuo's collections, made up in Karafuto-Sakhalin during his personal scientific trip around the middle and southern parts of the island in 1933-1934, Bulletin of the Tohoku University Museum, No.5, pp.57-82, 2006
- 鹿又喜隆「東北地方」, 『公開シンポジウム縄紋化のプロセス予稿集』, pp.36-52, 2006.4
- 酒井公美子・小原圭一・池田利晴・小林弘典・鹿又喜隆「放射性炭素年代測定の現状と課題」, 『木越邦彦先生米寿記念シンポジウム 年代測定と日本文化研究予稿集』, pp.13-20, 2006.9
- 小野章太郎・鹿又喜隆「宮城県の旧石器時代編年」, 『木越邦彦先生米寿記念シンポジウム 年代測定と日本文化研究予稿集』, pp.76-84, 2006.9
- 鹿又喜隆「福島県の後期旧石器時代編年と年代」, 『木越邦彦先生米寿記念シンポジウム 年代測定と日本文化研究予稿集』, pp.85-94, 2006.9
- 鹿又喜隆「東北日本の石刃石器群の機能論」, 『第20回東北日本の旧石器文化を語る会 東北日本の石刃石器群』, pp.53-71, 2006.11
- 鹿又喜隆「東北地方の尖頭器石器群の技術と編年」, 『旧石器考古学』68, pp.1-16,

2006.12

鹿又喜隆「更新世末から完新世初頭にみられる人類の環境適応－東日本の事例から－」, 『宮城考古学』第9号, pp.1-20, 2007.5

鹿又喜隆「細石刃集団の移動と生業活動－細石刃の二次加工にみる遺跡間の関係から－」, 『須藤隆先生退任記念論文集 考古学談叢』, pp.131-149, 2007.5

鹿又喜隆「細石刃文化期の技術組織の一様相」, 『考古学ジャーナル』560, pp.18-23, 2007.7

鹿又喜隆「東北地方における土器出現期の様相」, 『第2回シンポジウム 年代測定と日本文化研究予稿集』, pp.37-48, 2007.9

高原要輔・鹿又喜隆・会田容弘「福島県笹山原No.27遺跡にて採取された旧石器時代資料(その1)」, 『福島考古』第49号, pp.93-105, 2008.3

鹿又喜隆「本州東北部にみられる大型両面加工石器群の研究－新ドリラス期相当の寒冷環境への人類の適応行動－」, 『旧石器考古学』70号, pp.59-70, 2008.7

鹿又喜隆「発掘調査におけるサンプリングの実践と遺跡形成過程の研究－福島県笹山原 No.16 遺跡の平安時代住居跡とローム層包含層の調査成果をもとに－」, 『第3回シンポジウム 年代測定と日本文化研究予稿集』, pp.23-29, 2008.9

鹿又喜隆「東北地方における定住化のプロセス－旧石器時代終末から縄文時代前期にかけて－」, 『東北縄文前期社会における集落と生業 予稿集』, pp.17-42, 2008.10

鹿又喜隆「大石田町立歴史民俗資料館所蔵の角二山遺跡細石刃石器群の研究(その2)」, 『山形考古』第8巻第4号, pp.3-6, 2008.10

鹿又喜隆「神子柴・長者久保石器群とその後の時代－人類活動と環境変動との対応関係から－」, 『第22回東北日本の旧石器文化を語る会』, pp.90-107, 2008.12

鹿又喜隆「放射性炭素年代測定の現状」, 『地球科学』63巻, pp.41-43, 2009.1

高原要輔・鹿又喜隆「福島県笹山原No.27遺跡にて採取された旧石器時代資料(その2)」, 『福島考古』第50号, pp.1-18, 2009.3

鹿又喜隆「福島県笹山原 No.27 遺跡の細石刃石器群の機能研究」, 『第14回石器使用痕研究会発表要旨』, pp.1-4, 2009.3

鹿又喜隆「定住・定着化プロセスからみた東北地方の縄文前期(予察)」 『東北縄文社会と生態系史 予稿集』 pp.18-30, 2009.7.

- 鹿又喜隆「縄文時代中期末から後期初頭の配石・立石を伴う住居跡に関する生態学的理解」, 『文化』第73巻1・2号, pp.1-20, 2009.10
- 鹿又喜隆「定住・定着化プロセスからみた東北地方の縄文前期」, 『日本考古学協会2009年度山形大会資料集』, pp.35-44, 2009.10
- 鹿又喜隆「押出遺跡の石器の機能」, 『日本考古学協会2009年度山形大会資料集』, pp.153-162, 2009.10
- 鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・市川健夫・小原一成・村田弘之「山形県丸森1遺跡第二次発掘調査の概要」, 『東北史学会2009年度大会発表要旨』2009.10.3
- 菅野智則「縄文時代中期集落の構造」, 『文化』69-1・2, 2005
- 菅野智則「複式炉を有する縄文中期後葉集落の分布」, 『日本考古学協会2005年度福島大会研究発表要旨』, 2005
- 菅野智則「複式炉を有する縄文集落の分布」, 『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集』, 2005
- 菅野智則「集落研究におけるデータベース」, 『博古研究』30, 2005
- 菅野智則「北上川流域における中期後半集落の研究」, 『宮城考古学』8, 2006
- 菅野智則「北上川流域における縄文集落の構造—複式炉と構成単位—」, 『日中交流の考古学』, 2007
- 菅野智則「北上川・馬淵川流域における晩期縄文集落の特徴」, 『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』, 2007
- 菅野智則「東北地方縄文時代中期後半土器の研究—器形変化に関する属性分析—」, 『考古学談叢』, 2007
- 菅野智則「北上川流域における縄文時代中期後半集落のあり方—分析の課題—」, 『岩手県における縄文文化の諸相』, 2007
- 菅野智則「北上川流域における縄文時代中期後半集落の地域性」, 『博古研究』34, 2007
- 菅野智則「北上川流域の縄文社会—立地と分布からみた集落の変化—」, 『東北縄文社会の歴史動態的研究—河川流域における縄文集落の考古学的研究—』, 2008.1

1-2 著書・編著

- 須藤隆(共編) 『最上川流域の後期旧石器文化の研究 1-上ミ野A遺跡第1・2次

- 調査』, 2005.3
- 須藤隆(共著) 『青森県史 資料編 考古3 弥生—古代』, 2005.3
- 須藤隆(編著) 『岩手県川村(砂沢)遺跡出土資料』奈良国立文化財研究所史料第74冊, 2006.3
- 須藤隆(編著) 『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』, 2007.3
- 阿子島香(共著) 『仙台市史通史編 1 原始 旧石器時代改訂版』, 仙台市発行, 2005
- 阿子島香 「先史の東北—石器と人々—」, 花登正宏編『東北—その歴史と文化を語る』, 東北大学出版会, pp.1-38, 2006
- 阿子島香(編著) 『ことばの世界とその魅力』, 東北大学出版会, 2008.4
- 阿子島香(共著) 『考古学—その方法と現在—』(第5章「層位学と年代」, 第9章「使用痕分析と実験考古学」, 第14章「遺跡内での遺物分布」, 「プロセス考古学とアメリカ考古学」), 放送大学印刷教材, 国立印刷局, 2009.3
- 阿子島香(共編) 『石巻市梨木畑貝塚出土資料』, 東北文化資料叢書第4集, 東北大学大学院文学研究科東北文化研究室, 2009.3
- 鹿又喜隆(共著) 『最上川流域の後期旧石器文化の研究 1—上ミ野A遺跡第1・2次調査』, 2005.3
- 鹿又喜隆(共著) 『常磐自動車道遺跡調査報告 43 四ツ栗遺跡・熊平B遺跡・荻原遺跡』福島県文化財調査報告書第433集, 2006.10
- 鹿又喜隆(共著) 『常磐自動車道遺跡調査報告 42 仲山C遺跡・明神遺跡』福島県文化財調査報告書第432集, 2006.10

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 須藤隆 「遺跡発掘の方法」中村捷他編『人文科学ハンドブック』, 2005.3
- 須藤隆 『日本古代史大辞典』, 上田正昭監修, 項目執筆, 大和書房, 2006
- 阿子島香 『新日本考古学小辞典』, 芹沢長介他編, 項目執筆, ニューサイエンス社, 2005
- 阿子島香 「芹沢先生の教育と使用痕研究(芹沢長介追悼特集)」, 『考古学ジャーナル』546号, pp.24-25, 2006
- 阿子島香 『「技術的組織論」の観点による後期旧石器の機能に関する比較文化的研究』科学研究費補助金研究成果報告書, 2007
- 阿子島香 「須藤隆教授の業績と学風」, 『文化』, 第70巻3・4号, pp.1-5, 2007.3

- 阿子島香 「惜別・中橋彰吾先生を偲んで」, 『宮城考古学』 9, p.197, 2007
- Toshio Yanagida, and Kaoru Akoshima, Preface: Research of the Early Palaeolithic Industry discovered at the Sozudai site, Oita Prefecture, Kyushu Japan. Bulletin of the Tohoku University Museum, No.7, 2007
- 阿子島香 「石器使用痕の解釈基準をめぐって」 『石器使用痕研究会会報』 8, pp.9-11, 2008.1
- 阿子島香 「貝塚・石器・石のゴミー菅野氏へのコメント」, 『東北文化研究室紀要』 49, pp.46-47, 2008.3
- 阿子島香 (協力) 「クロマニヨン人が残した立体芸術」 『NEWTON』, vol.28, no.6, pp.84-91, 2008.6
- 阿子島香 『文化人類学事典』 (項目執筆「考古学」), 日本文化人類学会編, 丸善出版, pp.267-268
- 鹿又喜隆 「2004 年の動向 旧石器時代 (東北)」, 『考古学ジャーナル』 530, pp.7-9, 2005.5
- 鹿又喜隆 「2005 年の動向 旧石器時代 (東北)」, 『考古学ジャーナル』 544, pp.8-10, 2006.5
- 鹿又喜隆・村上裕次 「2006 年の動向 旧石器時代 (東北)」, 『考古学ジャーナル』 558, pp.8-10, 2007.5
- 菅野智則 『日本古代史大辞典』, 上田正昭監修, 項目執筆, 大和書房, 2006
- 菅野智則 「縄文人の「ゴミ」と集落」, 『東北文化研究室紀要』 49, pp.44-45, 2008.3
- 菅野智則・山本直人・宮尾亨・岩崎厚志・松井章 「アメリカ オレゴン州 サンケン・ビレッジ遺跡-コロンビア川河畔のドングリ貯蔵穴の調査」, 『考古学研究』 54-4, pp.120-123, 2008.3

1-4 口頭発表

- 須藤隆 「縄文から弥生へー東北考古学の回顧そして展望ー」, 須藤隆先生最終講義 (於東北大学), 2007.3.10
- 芹沢長介、柳田俊雄、阿子島香、小野章太郎 「群馬県桐生市鶴ヶ谷東遺跡の前期旧石器」, 『日本考古学協会第 72 回総会研究発表要旨』, pp.25-28. 於東京学芸大学, 2006.5.28
- 阿子島香 「ジオアーケオロジーとセトルメントアーケオロジーの接点ー欧米での研究からー」 『多摩川流域の考古学的遺跡の成立と古環境シンポジウム・

- 土と遺跡—時間と空間 予稿集』, pp.34-35, 於調布市, 2007.1.27
- 阿子島香 「歴史資源としての考古資料—石器を中心に—」『公開シンポジウム・歴史資源としての史料分析の現在 第1回』, 東北大学大学院文学研究科, 2007.3.13
- 阿子島香 「石器使用痕の解釈基準をめぐって」『石器使用痕研究会 第12回研究会』, 於東京都立大学, 2007.3.24
- Akoshima, Kaoru. Recent Research on the Early Palaeolithic of Japan. Paper presented at 72nd annual meeting of the Society for American Archaeology. Austin, Texas, Abstract for papers, pp.34-35. April 29, 2007
- Akoshima, Kaoru. Academic exchange in the field of archaeology. International symposium of the 15th anniversary of the academic exchange agreement between Tohoku University and Siberian Branch of Russian Academy of Sciences. Section meeting. Sendai Internatinal Center, August 24, 2007
- 阿子島香 「ヨーロッパ南西部における更新世末期の環境変動と人類活動—マドレーヌ文化の事例を中心に—」, 『第2回 年代測定と日本文化研究 シンポジウム予稿集』, pp.70-73, 加速器分析研究所, 於福島県文化センター白河館まほろん, 2007.9.9
- Akoshima, Kaoru. Recent Developments of Micro Use-wear Studies on Stone Tools in Japan. 古代香港与東亜 於香港中文大學中國文化研究所中國考古藝術研究中心考古博物館創館, November 21, 2007
- 阿子島香 「貝塚・石器・石のゴミ—菅野氏へのコメント—」, 『2007年度 東北文化研究室公開シンポジウム』, 2007.12
- Akoshima, Kaoru. Lithic microwear analysis in Japanese prehistoric studies : Functional interpretation and technological organization. Paper presented at 73rd annual meeting of the Society for American Archaeology (Vancouver), March 30, 2008
- Akoshima, Kaoru. A perspective of microwear analysis of ground stone tools. Paper presented at a symposium, 「古代玉器研究方法探索」 研討會, 於香港中文大學文物館, April 10, 2008
- Akoshima, Kaoru. Lithic microwear analysis toward a more integral approach to function and technology as "micro-traceology". Paper presented at 74nd annual meeting of the Society for American Archaeology. Atlanta, Georgia, April 24, 2009

阿子島香「遺跡内の遺物分布から旧石器人の活動を探る—考古学と民族学の接点—」，日本考古学協会設立 60 周年記念・仙台市富沢遺跡旧石器発見 20 周年記念講演会，2009.2

Akoshima Kaoru, Yanagida Toshio. Research of the Early Palaeolithic Industry discovered at the Sozudai site, Oita Prefecture, Kusu, Japan. International Symposium on Palaeoanthropology in Commemoration of the 80th Anniversary of the Discovery of the First Skull of Peking Man and the first Asian Conference on Quaternary Research Beijing, 21 October, 2009

鹿又喜隆「東北地方」公開シンポジウム縄紋化のプロセス，2006.4.29，（於）東京大学

鹿又喜隆「福島県の後期旧石器時代編年と年代」，木越邦彦先生米寿記念シンポジウム 年代測定と日本文化研究，2006.9.2，（於）白河市ホテルサンルート白河

鹿又喜隆「東北日本の石刃石器群の機能論」，東北日本の旧石器文化を語る会 20 周年記念シンポジウム 東北日本の石刃石器群，2006.11.26，（於）山形県高島町

鹿又喜隆「更新世末から完新世初頭にみられる人類の環境適応—東日本の事例から—」，宮城考古学会総会・研究発表会，2007.5.20，（於）仙台市エルパーク 21

鹿又喜隆「東北地方における土器出現期の様相」，第 2 回シンポジウム 年代測定と日本文化研究，2007.9.9，（於）福島県文化財センター白河館

鹿又喜隆「発掘調査におけるサンプリングの実践と遺跡形成過程の研究—福島県笹山原 No.16 遺跡の平安時代住居跡とローム層包含層の調査成果をもとに—」，第 3 回シンポジウム 年代測定と日本文化，2008.9.20，（於）福島県文化財センター白河館

鹿又喜隆「東北地方における定住化のプロセス—旧石器時代終末から縄文時代前期にかけて—」，シンポジウム『東北縄文前期社会における集落と生業』平成 20 年文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究」，2008.10.18，（於）東北芸術工科大学

鹿又喜隆「福島県笹山原 No.27 遺跡の細石刃石器群の機能研究」，第 14 回石器使用痕研究会，2009.3.7，（於）東北大学

鹿又喜隆「定住・定着化プロセスからみた東北地方の縄文前期（予察）」、『東北縄文社会と生態系史』平成 21 年文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究」, 2009.7.11（於）東北芸術工科大学

鹿又喜隆「定住・定着化プロセスからみた東北地方の縄文前期」, 日本考古学協会 2009 年度山形大会, 2009.10.18,（於）東北芸術工科大学

鹿又喜隆・柳田俊雄・阿子島香・市川健夫・小原一成・村田弘之「山形県丸森 1 遺跡第二次発掘調査の概要」, 東北史学会 2009 年度大会・考古学部会 2009.10.3,（於）東北大学

菅野智則「複式炉を有する縄文集落の分布」, 日本考古学協会 2005 年度福島大会シンポジウム 2005

菅野智則「北上川流域における中期後半集落の研究—炉構造による住居跡形態の差異—」, 2006 年度宮城県考古学会総会・研究発表会, 2006

菅野智則「北上川流域における縄文時代中期後半集落のあり方」, 2007 年岩手考古学会第 38 回研究大会, 2007

菅野智則「北上川流域における縄文時代中期後半集落の地域性—炉跡からみた地域的様相—」, 東北史学会, 2007

菅野智則「縄文人の「ゴミ」と集落」, 『2007 年度 東北文化研究室公開シンポジウム』, 2007.12

菅野智則「北上川流域の縄文社会—立地と分布からみた集落の変化—」, 『東北縄文社会の歴史動態的研究—河川流域における縄文集落の考古学的研究—』, 2008.1

2 教員の受賞歴（2005～2009 年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2005～2009 年度）

（1）科学研究費補助金

2005 年度

須藤隆 教授

2005～2006 年度 基盤研究（C）(2) 東日本縄文・弥生時代集落の比較文化研究,（研究代表者）, 3,200,000 円

阿子島香 教授

2003～2006 年度 基盤研究 (C) (2) 「技術的組織論」の観点による後期旧石器の機能に関する比較文化的研究 (研究代表者) 3,400,000 円 ※2003 年度より継続のため、記載した。

菅野智則 助教

2005～2006 年度 基盤研究(C)(2) 東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性 (分担) ,2,200,000 円

2005・2007 年 度斎藤報恩会研究助成金 陸奥国における瓦生産開始期の研究 (分担) , 250,000 円

2007 年度

菅野智則 助教

2007 年 若手研究 B 縄文時代集落構造の研究-考古学資料の定量化と可視化- (研究代表者) , 2,500,000 円

(2) その他

阿子島香 教授

2008 年 文部科学省・大学院教育改革支援プログラム (大学院G P) 『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』東北大学大学院文学研究科・歴史科学専攻 (取組実施担当者代表)

V 教員による社会貢献 (2005～2009 年度)

須藤隆 教授

文化財保護審議会第三専門調査委員会委員
宮城県文化財保護審議会委員 (～2007 年度)
仙台市文化財保護審議会委員
宮城県多賀城跡調査研究所発掘調査委員会委員長
仙台市史編纂委員会専門委員
仙台市郡山遺跡発掘調査指導委員会委員
大船渡市史跡大洞貝塚発掘調査指導委員会委員
国史跡慧日寺整備指導委員会委員
国史跡山王圀遺跡整備計画策定委員会
斎藤報恩会自然史博物館評議員

阿子島香 教授

仙台市市民文化事業団理事（2004～現在）

仙台市史編纂調査分析委員（2003～2005）

宮城県文化財保護審議会委員（2008～）

宮城県特別名勝松島保存管理計画策定会議委員（2008～）

みやぎ県民大学「東北—その歴史と文化を探る」講師（2005）

有備館講座「東北の豊かさ」講師（2005）

白石市民大学（宮城県白石市教育委員会）講師(2006)

鹿又喜隆 准教授

「考古学基礎研修Ⅰ まほろん収蔵の考古基準資料（旧石器）」講師（2009.5）

Ⅵ 教員による学会役員等の引き受け状況（2005～2009年度）

須藤隆 教授

日本考古学会幹事（2004～）

考古学研究会全国委員（2004～）

東北史学会評議員（2005～）

東北大学文学部考古学研究会代表（2004～2006）

阿子島香 教授

東北史学会評議員（2004～）

東北大学文学部考古学研究会代表（2007～）

東北日本の旧石器文化を語る会役員（2008～）

鹿又喜隆 准教授

東北日本の旧石器文化を語る会役員（2008～）

東北史学会評議員（2009～）

菅野智則 助教

宮城県考古学会会誌幹事会委員(2004～)

博古研究会委員（2004～）

Ⅶ 教員の教育活動（2009年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

阿子島香 教授

考古学研究実習Ⅰ・Ⅱ (1・2学期) 「考古学の調査と資料分析(1)(2)」

資料基礎論特論 (2学期) 「先史考古学資料論」

考古学研究演習Ⅰ (1学期) 「考古学研究史」

考古学研究演習Ⅱ (2学期) 「考古学の方法と理論」

人文社会科学研究 (2学期) 「国際高度学芸員研究演習」

鹿又喜隆 准教授

考古学研究実習Ⅰ・Ⅱ (1・2学期) 「考古学の調査と資料分析(1)(2)」

考古学特論Ⅰ (1学期) 「日本考古学の諸問題—先史考古学研究の課題と展望—」

考古学研究演習Ⅱ (2学期) 「考古学の方法と理論」

2 学部授業担当

阿子島香 教授

考古学概論 (3セメスター) 「先史考古学概説」

考古学講読 (5セメスター) 「先史文化研究」

考古学演習 (5セメスター) 「考古学研究史」

考古学演習 (6セメスター) 「考古学の方法と理論」

考古学実習 (5・6セメスター) 「考古学資料分析法(1)・(2)」

資料基礎論各論 (6セメスター) 「先史考古学資料論」

鹿又喜隆 准教授

考古学基礎講読 (4セメスター) 「考古学資料読解」

考古学基礎実習 (3セメスター) 「考古学資料の観察と記録」

考古学各論 (5セメスター) 「日本考古学の諸問題—先史考古学研究の課題と展望—」

考古学演習 (6セメスター) 「考古学の方法と理論」

考古学実習 (5・6セメスター) 「考古学資料分析法(1)・(2)」

3 共通科目・全学科目授業担当

なし

(2) 他大学への出講 (2005～2009 年度)

阿子島香 教授

放送大学非常勤講師 (2005 年度)

放送大学分担協力講師「考古学」 (2007～2008 年度)